

台湾総統

訪日に強い意欲

公式の場、代読表明

日本と台湾間の国際学術会議「第六回アジア・オーブン・フォーラム横浜会議」開催二日目の二十九日、台湾の李登輝総統は、黄石城行政院政務委員（国務大臣）が代読したあいさ

つの中で、「今後、このような学術および文化交流活動においてその機会が得られるよう、心から願う」と述べ、「その機会」という表現で李総統自らの訪日に強い意欲を示した。

李総統が日台間の公式な交流の場で、具体的に訪日問題に言及したのは初めて。

李総統はこのあいさつの中で、「会議の主催者側は本来、私に出席を招請するところでしたが、それがかなわず誠に遺憾」と述べ、李総統の広島アジア大会への出席問題が、民間交流である同会議出席にも深く影響したことを明らかにした。

李総統はまた、意見交流による相互理解を深めることが「政策決定レベルにも影響してくる」ことを強

調。その上で経済、工業、投資、あるいは教育問題などのあらゆる分野で、日台間の交流を一層レベルアップする必要性を訴えた。

一方、同会議に出席した張京育政務委員は、産経新聞のインタビューに対し、李総統の発言について「迎

入れる環境が整ったとき、李総統の訪日は初めて実現する」との考えを示し、日本政府に外交政策の見直しを暗に求めた。